

改善計画書

施策番号	担当部	担当課	職名	氏名	電話番号(直通)	
33110	まちづくり計画部	都市交通計画課	課長	石川 敏美	042-769-8249	
施策名	総合交通体系の確立					
施策の目的	<p>平成13年度に策定した「相模原市総合都市交通計画」は、「道路網基本計画」、「公共交通網基本計画」、「TDM(交通需要マネジメント)基本計画」の3つの基本計画で構成されている。特に、「TDM基本計画」は、増え続ける自動車交通を円滑に処理していくためには、道路整備等のハード整備だけでは対応できないため、道路利用者の時間帯や経路の変更、交通手段の変更、自動車の効率的な利用など、新たなソフト施策として推進するものである。</p>					
これまでの取組	<p>TDM基本計画:平成17年度に県道相模原愛川線で実施したTDM社会実験の結果を踏まえ、公共交通への更なる利用転換を図るため、「愛川線TDM推進会議」を設置してバス待ち環境改善等21の実施計画を策定するとともに、「田名地区におけるマイカー通勤対策検討会」を設置し、通勤時のマイカーから公共交通への利用転換策を検討した。</p>					
評価結果 (平成17年度 実績評価)	1次評価	B	2次評価	B	3次評価	B
	3次評価での指摘事項等及び意見 (は行政評価検討委員会としての指摘事項・改善要望項目、 は各委員の意見)					
	<p>実施した事業の中から、成果指標として市民に示すことのできる、わかりやすい指標を設定すること。 本施策については、節レベルで市民にわかりやすい指標設定を行い、指標の共有化を図ること。</p> <p>都市交通計画課としての活動の成果を示す指標を設定する必要があるのではないかと。成果指標としては、「時間短縮」や「渋滞距離や渋滞箇所の減少」などが挙げられるのではないかと。</p> <p>「総合交通体系の確立」という施策は、3つの計画から構成されているが、3つの計画を束ねた指標や共通して使える指標を設定できないかと。</p> <p>施策レベルの見直しも必要なのではないかと。</p> <p>今回実施した社会実験結果などから指標を設定する方が、市民にとってわかりやすいのではないかと。</p>					
3次評価の指摘事項を踏まえた課題整理	<p>市民にとってわかりやすい指標を具体的に設ける。 市民にとっての<u>成果がわかるような</u>指標設定を行うことで、市民の理解を深められるようにする。</p>					

改善計画	改善目標及び改善時期	平成19年度にわかりやすい指標及び成果がわかる指標の設定を行う。	
	具体的な改善方策	社会実験から指標を設定する。 社会実験を踏まえた本格実施のための取組みを指標に設定する。	
	成果指標の設定	実施の時期	平成19年度末までに
		【共同通勤バスの運行】 愛川線(県道54号)において社会実験時に実施した「近隣企業間と合同での社員用実験バス」の実験結果を踏まえて共同通勤バス運行の導入検討を行い、共同通勤バスの運行状況を測る指標を設定する。 指標:複数企業間での通勤バスの本格運行事業者数 現状:3社 目標値:13社	
成果指標の設定	実施の時期	平成19年度末までに	
	【運賃制度の改善】 市内における共通ICカード乗車券(PASMO等)が利用できるバス路線系統数を測る指標を設定する。 指標:共通ICカード利用可能系統数 現状:0% 目標値:100%		
改善結果	改善目標の達成状況		
	評価及び今後の取組方針等		